

都中道研

第一三一号

会長 月田行俊 (江東区立有明中学校長)



東京都中学校道德教育研究会の第四代会長を仰せつかりました江東区立有明中学校長の月田行俊と申します。よろしくお願いいたします。

昭和三三年に本会がスタートして六六年間の長きに渡り、都中道研が、組織として持続してこられたのも、歴代会長をはじめ、尽力されてきた会員の皆様の研究の積み重ねがあったからだ、改めて感謝申し上げます。

ここ四年間の本会の研究主題を振り返ると、令和二年度は「社会情勢の急激な変化において、共によりよく生きる力を育む道德教育」と設定し、研究発表会はHP上で行いました。令和三年度からの三年間は、「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応す

る道德科の指導の工夫」と設定し、ハイブリッド型で継続して発表してきました。令和六年度は、「人間としての生き方について考えを深める道德科の指導の工夫」としました。これは、道德科の目標そのものをテーマに掲げ、真正面から道德科に向き合うという思いから設定したものです。「道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」の充実が欠かせないものと考えます。

今年度の活動は、毎回の研究部会でのワークショップ的な取組をしながら裾野を広げるとともに、第五八回全日本中学校道德教育研究大会並びに第五三回関東甲信越中学校道德教育研究大会 神奈川大会での発表に向け、研究活動を行います。また、令和七年二月の都中道研研究発表大会に向けて、研究主題に沿った公開授業の研究と準備を行うとともに、全公立中

学校対象の道德教育推進状況アンケートの実施と集約分析などにも取り組んで参ります。

さらに、令和八年度は、第六〇回全日本中学校道德教育研究大会と第五五回関東甲信越中学校道德教育研究大会を東京で実施します。令和六年度の研究を充実させるだけでなく、二年後の大会に向けての準備も加速させていくためにも、さらに多くの会員を募り、都中道研という組織を盤石なものにしていく必要があると考えています。

先を見据えつつ、研究をしっかりと固める」ことをスローガンに令和六年度を進めていきたいと考えております。

令和六年度研究部活動計画
研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)
研究部会開催日時と主な内容
第一回 四月十三日(土)

会場 杉並区立天沼中学校
会長挨拶、参加者自己紹介、令和六年度研究主題、組織、神奈川大会確認他

第二回 四月二十七日(土)

会場 杉並区立天沼中学校
神奈川全国大会提案内容検討・教材分析

第三回 六月一日(土)

会場 杉並区立天沼中学校
神奈川全国大会発表原稿検討・教

材分析

第四回 六月二十九日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

神奈川全国大会原稿検討・指導方法の工夫について

第五回 七月三十日(火)

会場 杉並区立天沼中学校

神奈川全国大会発表原稿検討

第六回 九月二十八日(土)

神奈川全国大会発表原稿修正・研究発表大会に向けて

第七回 十月二十六日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

神奈川全国大会発表原稿最終確認、研究発表大会授業者選出

第八回 十一月三十日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

研究発表大会公開授業指導案検討

第九回 十二月十四日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

研究発表大会公開授業指導案検討

第十回 一月二十五日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

研究発表大会リハーサル

令和六年度研究発表大会

二月五日(水) 午後一時三十五分

から【会場 杉並区立天沼中学校
web配信も予定】

第十一回 二月二十二日(土)

会場 杉並区立天沼中学校

研究発表大会反省次年度に向けて

第十二回 三月二十二日(土)

今年度のまとめ、次年度の計画

事務局だより

事務局長 生野 まゆみ

(調布市立神代中学校長)

一 総会・研修会

令和六年六月二十日(木)に高円寺学園で実施しました。今回もハイブリット型での開催をニューノーマルとして継続しています。会場参加とオンライン参加を合わせて約50名の皆様にご参加いただき感謝しております。ご理解、ご協力ありがとうございました。

(一) 総会について

麻生 隆久 会長のあいさつに続き、来賓の東京都教職員研修センター教育開発課 塚原 雄太様にごあいさつをいただきました。続いて、令和五年度の活動報告、決算報告、会計監査報告について、ご説明し、ご承認いただきました。

また、令和六年度の会長及び役員の推薦についてもご承認いただきました。会長は月田 行俊(江東区立有明中学校長)が承認されました。そして、相談役・顧問の推挙、活動計画案、予算案についてもご承認いただきました。

(二) 研修会について

国立教育政策研究所教育課程調査官 井上 結香子 様を講師に

お招きし「道德教育の充実に向けて」を演題に、ご講演いただきました。「令和の日本型学校教育の構築を目指して」、「道德科の授業の充実に向けて」、「道德教育の充実に向けて」の三つを柱にお話しいただきました。現場で直面する課題に対するご指導、ご助言をたくさんお示しいただきました。



二 第一回部員総会・研修会

令和六年八月二十二日(木)にセシオン杉並で実施しました。コロナ禍以降続いていたハイブリット型ではなく、久しぶりの参集型のみでの開催となりました。たくさんの方にご参加いただき、感謝

しております。ご理解、ご協力、ありがとうございました。

(一) 部員総会について

月田 行俊 会長のあいさつに続き、来賓の全日本中学校道德教育研究会会長 木村 知広 様にごあいさつをいただきました。各部からは、滞りなく計画にそって活動をしているとの報告がありました。研究部からの報告は、研修会で行いました。

(二) 研修会

池田 和幸 研究部長(杉並区立天沼中学校長)より、研究部の活動について、報告がありました。続いて研究部員による、研究の報告がありました。



第五十八回全国日本中学校道德教育研究大会川崎大会、第五十三回関東甲信越中学校道德教育研究大会川崎大会での発表者である大谷 秋音 研究部員(世田谷区立桜丘中学校)からは、大会主題「自他を大切にする心を育む道德教育の充実」学びのつながりを感じ、自己の考えを深められる授業づくりを通して「」を受け「道德科の指導と評価」について、研究報告がありました。



「研究報告についての指導・講話」として、全日本中学校道德教育研究会顧問、東京都中学校道德教育研究会顧問 永林 基伸 先生を講師に招き、ご指導、ご講評をいただきました。また、永林先生には「持続可能な全中道研・関中道研を目指して」を演題にご講話いただきました。

（講話の一部を紹介します）



令和三年の文科省の全国道德の調査の回答結果から、道德教育の充実のために、特に課題となることとして、「教師の指導力」や

「学校管理職のマネジメント」が挙げられました。各教科の取組と同様に、実施計画に沿って、しっかり行うこと、ローテーション授業の意味をしっかりと理解して取り組むこと、話し合い語り合いの場を大切にするのが大切となります。さらに、管理職の道德として授業への参加について、教科化前の指導要領に明記されています。

都中道は、都内の全区市町村の学校が活動できるように工夫してくださっていますが、今年度は川崎で関プロ大会と全国大会、二年後の東京大会に向けて、協力が必要となります。

道德が教科化されたこともあり、決められた時間を全国で取り組んでいることと思いますが、授業の進行に悩みを抱える教師も多いことがアンケートで明らかになっています。先の「教師の指導力」「学校管理職のマネジメント」に課題があるという回答結果を重く受け止めなければなりません。

授業の時間数については、学習指導要領という法的根拠があります。また、指導法の改善も必要で、先生の言うことを聞かせる、これが大事だと教え込む。こういう

授業はないでしょうか。

都中道としても、実態調査を通して、困っていること、重点項目やローテーション授業について等、道德の授業の推進について、各校に確認してもよいかと思っています。



最後に、教師自身の道德についての向き合い方。この項目等を取り上げた時に「自分ではどうなのだろう」と、授業を行う前に向き合ってもらいたい。課題に対峙する、向き合うことが、道德を考える上で大事なことです。向き合えば、分からないこともいっぱい出

てくる。迷うこと、それを教師自身が持たないと、対話ができません。教師も一人の人間として対話に加わり、一緒に考える。人間は自分自身と他の全ての者と必死で対話して生きている。自分自身とも対話して必死に生きているといわれます。もちろん、言葉が媒体になるけれど、それだけではなく、目、口、思いや雰囲気、全て、対話の対象となります。対話というものをするのが大事にしたいと今も思っております。

ご清聴ありがとうございました。

三 今後の研修会等について
各学校に案内を送付します。また、本研究会のホームページでもご案内いたします。ふるってご参加ください。

（一）第二回部員総会・研修会

令和七年一月十七日（金）

会場 調整中

（二）研究発表大会

二月五日（水）午後一時三十五分
から【会場 杉並区立天沼中学校
web 配信も予定】

研究部より

研究部長 池田 和幸

(杉並区立天沼中学校長)

【研究主題】

「人間としての生き方についての考えを深める道德科の指導の工夫」

【主題設定の理由】

(一) 昨年度の取組の成果

令和五年度は、道德教育と行事指導の関連を高めた指導の工夫とICTを活用した学習評価の工夫について研究を進め、道德教育を学校の教育活動全体で関連性を意識しながら推進していくことの重要性や、ICT機器を学習評価に活用することによって、教師の指導の見直しや生徒の成長の様子の振り返りにつなげられることを確認することができた。

また、ひとつの教材において教材の解釈の違い、発問構成の違いなどによって、生徒に考えさせる視点を変えることで、複数の主題で授業を構成することができるとも確認することができた。

コロナ禍以降、タブレット端末の導入により、ICT機器の利点

を生かすことよりも、授業内の様々な場面で使われることを優先させた授業改善が進められてきた面は否めない。ICT機器の利点を生かし授業に取り入れていくことが重要であるということに改めて認識することができた。

また、「個別最適な学習」・「協働的な学習」についても、道德科の特質を踏まえて授業をすすめていくと、これら二つの学習が成立していくことが明らかになった。

教師の発問に対して、生徒が主体的に考え、それぞれの意見や考えを共有する。その意見や考えに対して、教師や生徒同士の問い返しで考えを深める。またそれを共有しながら改めて自分の考えを見つめ直すという道德科一連のプロセスには、「個別最適な学習」・「協働的な学習」が含まれていることが分かった。

そういった中で、昨年度の研究部の活動において、道德科の特質を見つめ直し道德科の指導の充実を図っていくことができたことは大きな成果であった。

(二) 課題

一方、課題としては、教科化となつて五年目ともなると、教科書

発行社が用意した指導過程、発問通りに授業を行う教員が多くなつてきているとアンケート調査から明らかになった。熱心に指導について研鑽を深める教員はいるものの、全体としては一部にとどまつており、授業力の向上が課題となつているということもアンケート調査などから明らかとなった。

「評価」についても、学期末等に、評価文例作成のソフトに頼つて評価を出すことが当たり前になつている学校が増えていくなど、形骸化してきているという指摘がある。

(二) 本年度の研究主題

今年度のテーマは、「人間としての生き方についての考えを深める道德科の指導の工夫」として、「人間としての生き方についての考えを深める」という道德科の目標を達成するには、どのような指導の工夫がふさわしいのかについて研究を進めていく。今年度は教

科書採択の年であり、次年度の令和七年度には、各地区で新しく採用された教科書が使用される。新しいタイプの道德の教材が登場することとも予想され、様々な教材に対応しながら、道德科の目標から外れずに指導ができるよう、多様な教材を取り上げ、生徒が人間としての生き方についての考えを深める授業をするには、という視点で今年度の研究に取り組む。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第一三一号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立蒲原中学校副校長)

副部長 高橋 優子

(国分寺市立第四中学校副校長)

都中道のホームページ

<https://www.3schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350004>

